



シーニックバイウェイ北海道全道会議2009
みちを通じた地域づくりの可能性
〈全道に広がる地域主体の取り組み〉

シーニックバイウェイ北海道推進協議会事務局
(北海道開発局開発監理部開発調整課・建設部道路計画課)

シーニックバイウェイ北海道は、平成17年の本格始動から5年目を迎え、これまでに全道において地域の特色を生かした様々な取り組みが実施されています。シーニックバイウェイ北海道推進協議会では、平成21年11月28日(土)に札幌市において、「全道会議2009」を開催しました。本会議は、全道12ルートの活動実績及びその知識・経験についての情報・意見交換を通じ、今後の活動の活性化と効果的な展開に資することを目的に行いました。

本稿では、基調講演と各ルートから報告された活動について概要を紹介します。

基調講演

みちを通じた地域づくりの可能性について
～シーニックバイウェイ北海道への期待～



森地 茂 氏
政策研究大学院大学教授・
運輸政策研究所所長
工学博士、1980年マサチューセツ工科大学客員フェロー、92年フィリピン大学客員教授、02年東京工業大学名誉教授、04年6月東京工業大学名誉教授、04年4月より現職。

経済・社会のグローバル化が地域格差の最大の原因—根本原因です。日本の場合、「アジアの富」をなんとか内部化する以外に根本の政策はないでしょう。そのためには地域力を結集しなくては行けないし、地域の個性とか魅力を磨き、新たな交流をし、新たな風土、文化が出てきて、また魅力を増す、そういう展開が必要です。まさにシーニックバイウェイ北海道の活動はそういうものです。

国土の景観

イザベラ・バード女史の話が、函館のルート活動紹介の中で出ましたが、彼女は新潟に行き「この素晴らしい都市景観をイギリスの都市計画家に見せたい」と言い、米沢(山形県)に行って「ここは東洋のアルカ

ディアだ」と言っています。ほかにも日本の街道がすばらしいと記しています。このように西洋人が明治以前から日本の景観、国土をほめています。美しいだけでなく、みんなが自分の家の前を掃除している。これらに感動するわけです。そして、明治期に西洋建築が入り、景観上の収まりで、新たな日本の風景が生まれました。現在でも銀座や東京駅、小樽にそういう風景が残っています。

ところが、戦後から1960年代にかけての日本の風景は、新しい建材や都市開発により壊されたといわれる時代でした。さらに1980年代後半からの10年は、経済のグローバル化と規制緩和が景観を壊しました。

今直面しているのは、人口減少下での国土計画問題です。空き家が増えて、古い団地が荒廃し、中心商業地だけではなく、観光地もひどい状況になりつつあります。この問題は私たちがどう考えていくかという、今日のもう一つの問題提起です。

国土計画の中では景観についてたくさんの方が書かれています。景観法ができ、文化財についても新しい考え方が入ってきています。基本的に国土計画における積み残された課題は、観光地、水辺、都市、農村の景観と言ってよいでしょう。人口減少下でこのような観光市場のシュリンク（萎縮）にいったい我々はどう対応していくのが課題です。

観光市場の変化

2、3年前から観光の過去の統計をなんとかもう一回掘り出しています。それぞれの年代が年齢別にどう移行し、これからどうなるのか知りたいと思ったからです。世代別で見ると、「団塊の世代」が、実は案外動いていないことが分かります。団塊の世代は、人口が多いので動いているように見えるのです。さらに若い人たちを見ると、動かないような人たちが出てきて、

これは大変困ったことになります。

観光地における活動内容は、「自然を楽しむ」「名所旧跡を見る」派がシェアとしてはどんどん減っています。増えているのは温泉とレジャー施設です。

次に「外国人」ですが、こちらは明らかに増えています。来訪者数では、韓国はこの不況、円高で今減っていますが、ずっと増えてきていますし、台湾も、中国も同様です。香港とかその他は割合頭打ちの状況です。比率で言うと、中国が訪日外国人において率が一番伸びています。ここに期待があります。続いて韓国、台湾、香港も増えています。シーニックバイウエイ北海道が努力してきた結果、シンガポールも非常に増えてきています。

ところが、これから有望な中国ですが、訪日者数はものすごく伸びていますが、困ったことに訪日割合はどんどん落ちていきます。

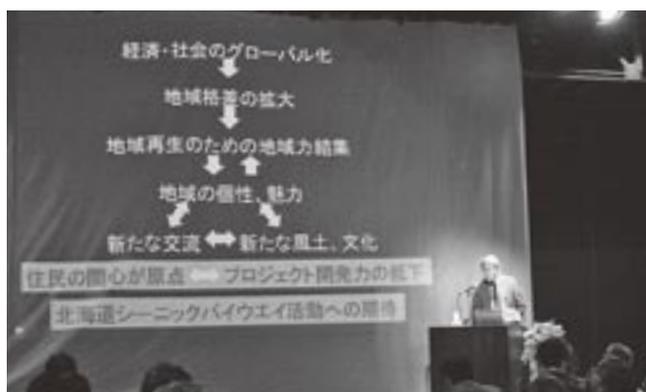
統計で中国を一つで見ると意味がなくて、南の方の人と北の方の人は当然好みが変わっているはずですから、東北、華北、大都市別という細かい分け方が必要です。中国は間違いなく大きなマーケットになるのですから、その人たちにどういう魅力を売り出せばいいのか、どういうマーケティングをするのか、来た時にどういうサービスをしたらいいのか。

とにかくリピーター比率がどんどん増えていきますから、中国の人たちをしっかりとつかんでおかなければなりません。

みちを通じた地域づくり

最後に、みちを通じた地域づくり。これは申し上げるまでもありませんが、交流とは圏域構造の改変であり、地域づくりの王道です。楽市楽座、シルクロードなどがそうです。圏域を変えて広げていくことが地域を活性化して新しい文化をつくる大変重要なことです。

道路は観光の対象であり、視点場としての役割も重要なことです。さらに小説はページをめくり物語が進みます。演劇は時間軸でだんだん物語が進みます。観



光は道路を歩いていく、そこが演出軸で感じられるわけですね。「トンネルを抜けると、そこは雪国だった」これが典型です。私たちが「みちを通じて」と言うときは、それぞれの機能に心を致しているかどうか、これが重要だと思います。

北海道は全体イメージはよいけれど、多様性に欠けるのが最大の弱点です。なんとか地域ごとに、「ここが違うのだ」と売り出し、「今回はここに来たけど、次はここに行きたい」と観光客に思わせるようにしてほしい。

シーニックバイウェイ北海道は、全国の地域づくりを先導してきました。これからもさらに新たな地域づくりモデルの開発をやっていただきたいと思っています。

活動報告&パネルディスカッション

3つのブロックに分けて、指定8ルート・候補4ルートの活動報告とパネルディスカッションが行われました。各ルートからは活動の経緯、創意工夫した点や、苦労した点などについて説明があり、それぞれについてパネラーから助言をいただきました。

パネリスト

- 小林 英嗣 氏 北海道大学大学院教授
- 臼井 純子 氏 (株)富士通総研取締役、第一コンサルティング本部エグゼクティブコンサルタント、PPP推進室長)
- 高野 伸栄 氏 北海道大学大学院准教授

コメンテーター

- 森地 茂 氏



第1ブロック

①十勝平野・山麓ルート

シーニック連携花壇

道道の駐車場で、荒地地となった花壇にひまわりを植えるなど、各町連携した花による景観整備。



シーニックカフェ・スタンプラリー事業

十勝の3ルートのシーニックカフェをスタンプラリーで周遊しドライブ観光の活性化を目指す取り組み。



②南十勝夢街道

シーニックカフェちゅうるい事業

日高山脈と農村風景を眺望できる丘にカフェを設置し、観光客に癒しの空間と地域の情報を提供。



フォトコンテスト・カレンダー作成事業

地域資源の発見のため、景観や暮らしをテーマにフォトコンテストを開催し、入選作品で作成したカレンダーで地域をPR。



③トカプチ雄大空間

PR・プロモーション事業

羽田空港や道内のイベント会場などで、クイズ大会など様々な工夫でルートのPRを図る活動。



「情報BOX」による発信事業

デザインを統一し、道産木材で製作した「情報BOX」をルート内の主要箇所に設置し、地域情報の発信を実施。



④大雪・富良野ルート

雪のアートプロジェクト「ウィンターサーカス」

冬の観光活性化のため、雪を使った近代的なランドアートを楽しむイベント。夜間のライトアップやバスツアーなど、2006年から取り組む活動。



臼井 十勝の3ルートがうまく融合してきています。女性の参加が見られましたが、女性のパワーをもっと発揮してほしい。旅行や移住・二地域居住等のアンケートによると最終的な意志決定をしているのは、女性だという分析結果もあります。

高野 大雪・富良野ルートのウィンターサーカスでは、ホテルなどと連携して、宿泊客が夕食後も行ける交通手段があれば、さらに集客効果が高まるのではないのでしょうか。

森地 有名な景勝地以外にも地域の資源がまだ存在しており、シーニックカフェによる拠点づくりなどは魅力的な活動と感じました。

第2ブロック

⑤支笏洞爺ニセコルート

ビューティフル・ロード おもてなしで繋ぐ道

地域を訪れる人々を、国道などにおける花植により美しい沿道でもてなす取り組み。管理、花苗の越冬など1年を通して活動を行っている。



暮らしを“伝える”活動 地域ガイド付きバスツアー

食、自然、景観など地域の魅力を五感で楽しめるツアーを実施。地域住民が自ら企画及びガイドを務める。



環境と景観を“守る”活動 安全・安心を提供するルート

景観を阻害する古い看板撤去及び景観に配慮した案内看板の設置など美しい沿道景観づくりを目指す活動。



⑥札幌南シーニックバイウエイ

シーニックバイウエイスタンプラリー in 南区

スタンプラリーでルート内の文化施設など14スポットを周遊することによりドライブ観光を促進し集客を目指す取り組み。



シーニックバイウエイ魅力発見ツアー

花、自然学習、紅葉と歴史などをテーマにルートの魅力を紹介するバスツアー。



⑦函館・大沼・噴火湾ルート

シーニックの森づくり

CO₂削減を目的とし、土地の植生や地域性、将来の林草を考慮した苗木の植樹を行うなど自生種を活用した森づくり。



⑧どうなん・追分シーニックバイウエイルート

殿様街道ウォーキング～歴史がつながく交流のみち～

現存する江戸時代の街道を活かして、歴史の道を辿りながら地域の自然を楽しむウォーキング。花、森、歴史などに詳しい地域の人々が案内役を担っている。



小林 札幌南シーニックバイウエイは、都市観光（アーバンツーリズム）では、道内で一番可能性があり、そのことを意識して活動を広げ、札幌圏の都市観光の考え方について地元から発信していただきたい。

どうなん・追分ルートは、「海峡」を取り入れ、青函とセットで考えることや、歴史の連携を考えてはどうでしょうか。また、イザベラ・バードという19世紀

に世界を歩いた英国の旅行家の話は付加価値となるのではないのでしょうか。

臼井 「シーニックの森」をもっとPRして環境を考えた旅行につなげたり、子供たちの環境学習につなげたりするとよいと思います。

札幌南シーニックバイウェイには、札幌が北海道のゲートウェイとなっているので、定山溪、札幌南を拠点にして、他のルートへ観光客が足を伸ばしたくなるような連携を考えていただきたい。

森地 道南の松前の北前船の歴史などは有名だが、さらに「何かがある」というような、+αの仕掛けがほしい。北海道の人口は札幌に集中していますが、札幌の人は道内を動いていないのではないのでしょうか。「このシーズンはここに行かせたい」「ここに何を食べにきたい」と思わせるものを考えてほしいと思います。

第3ブロック

⑨釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ

民間情報拠点“シーニックカフェ”の連携した取り組み

ルート内の4つのシーニックカフェが連携し、地域情報の提供や広報を実施。スタッフミーティングによるおもてなしの向上にも取り組む。



道東ウォーキングツーリズム推進活動

フットパスなどウォーキングツーリズムの推進に向けた調査及びウォーキングコースの検討を実施。



ルート巡回パネル展“懐かシーニックパネル展”

昭和初期の写真を収集・展示。ルートの歴史を伝えるとともに地域の未来を考える上でのヒントを得たいとの思いで実施。



⑩東オホーツクシーニックバイウェイ

東オホーツクシーニックバイウェイルートにおける情報発信

ドライブマップ作成とあわせ、webサイトを開設し、動画を使ってインターネットで地域の魅力を発信。



⑪宗谷シーニックバイウェイ

観光業界の広域連携実現へ向けて

宗谷地域の6つの市町村の観光を連携的に考えるような協議会を設置し広域的な活動を実施。



⑫萌える天北オロロンルート

ヒラメ底建網オーナー in 遠別

地域の特産物を活用して、地域のPR、地場産業の活性化を目指す取り組み。



地域情報受発信プロジェクト

地域住民が情報員となりwebサイト、フリーペーパー、コミュニティFM局による情報発信を展開。



小林 釧路湿原・阿寒・摩周ルートの「フットパス」はよい取り組みです。東オホーツクルートは、媒体を開発して「コストがかからない方向性」がよいと思います。宗谷ルートは、「観光の人たち中心」という正則のシーニックの活動です。もえる天北オロロンルートは、「生の生活」を見せるこだわりが面白い取り組みで、ダイナミックに展開する可能性があります。

このような全道会議の場において、ルートで悩んでいることを話したり、人の輪を広げたりしていくことが重要です。また、次の世代を育てることに力も注ぐことで北海道は大きく変わっていく可能性があります。